

就職活動体験記

蓬田 結和（文学部文学科日本文学専修）

はじめに

私は、令和5年度、1年の就職浪人を経て、某地方自治体の司書職として採用をいただきました。就職活動中には、先輩方の体験記を大いに活用させていただきました。そのため、微力ですが、私の経験談も何かの役に立ていただければ幸いです。

就職活動の変遷

先に述べたように、私は1年就職浪人しています。大学2年生の頃から洋菓子店でアルバイトをしており、それを続けながら公務員試験の勉強に励んでいました。

私は、とても優柔不断な性格です。高校生の頃から司書を志し、司書課程のある大学を受験したにもかかわらず、4年生になった途端、その圧倒的な倍率に怖気づいてしまい、民間企業への就職にシフトしてしまいました。しかし、いざ内々定を受けると、本当に自分がやりたいことは何なのかと自問自答を繰り返し、ついに4年生の夏、本格的に司書を目指すようになりました。

もちろん、9月に受けた二つの自治体では、学科試験の段階で見事に不合格をもらいました。そこから、アルバイトをしつつ、公務員試験に向けた勉強を始めたのです。

試験勉強について

ここで述べるのは、一般の行政や事務職員ではなく、あくまで「司書職」としての採用試験へ向けた場合であることをご了承ください。また、予備校等利用せず、全て独学だったため、勉強法はあまり参考にならない可能性があるため、先にお伝えしておきます。

私は、令和5年度には、都道府県レベルの二つと三つの市の合計五つの自治体で受験をしましたが、それぞれの試験形態は次のようでした。

- ① 教養+専門（記述）→ 面接+小論文（小論文は一次試験日に実施） 【都道府県】
- ② 教養+専門（選択）→ 面接+小論文（小論文は一次試験日に実施） 【市】
- ③ 教養+専門（記述）→ 面接 【都道府県】
- ④ 教養 → 面接 → 面接 【市】
- ⑤ 教養+面接 → 面接2回+適性検査 【市】

となっていました。一次が教養試験のみの場合があること、また、教養試験は基本的に選択方式ですが、専門試験は「記述」と「選択」の2通りがあるので、受ける自治体の試験形態をしっかりと確認した方が良いでしょう。

試験勉強について—教養試験—

さて、まず教養試験の勉強ですが、私が主に使用した教材は以下の通りです。

- ・『これだけ！教養試験 要点まとめ&一問一答』（高橋書店）
 - ➡1冊で社会科学・人文科学・自然科学が勉強できます。詳細さには欠けませんが、広く浅く勉強できるので、まずはこの本で大雑把な知識を身につけました。
- ・『新・光速マスター 人文科学 改訂第2版』（実務教育出版）

・『新・光速マスター 社会科学 改訂第2版』（実務教育出版）

⇒こちらも一問一答形式ですが、かなりマイナーな項目までカバーしています。自然科学も購入しましたが、文系の私にはちんぷんかんぷんでした。『これだけ！教養試験』で学んだ大まかな知識を、補うような形で使用しました。

・『新スーパー過去問ゼミ6 数的処理』（実務教育出版）

・『新スーパー過去問ゼミ6 判断推理』（実務教育出版）

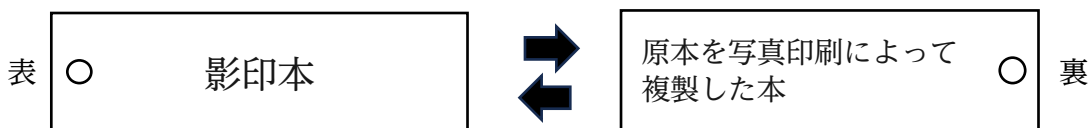
⇒数的処理と判断推理は、教養試験の勉強をする上で、最も重要視して良いと言っても過言ではないです。もちろん暗記系も大事ですが、どれだけ覚えても、全く知らない問題を出される可能性が十分にあります。しかし、数的処理や判断推理に関しては、基本的に似たような問題が出されますし、覚えた公式・解き方を応用できることも多いです。この本は、試験別の出題傾向がデータとして掲載されていて、要点や解説も丁寧なので、非常にオススメです。冒頭に本の活用法も記載されていますが、基本的に難易度表記の「*」が3つの問題はやらなくていいと思います。

他にも、英文読解や資料解釈の問題もありますが、特に勉強することはせず、自分の今までの学力を信じて臨みました。暗記系に関しても、得意不得意あると思うので、上手く取捨選択して勉強した方がいいかもしれません。私は、以前から世界史が苦手だったので、ほとんど捨てていました。

試験勉強について—専門試験—

そして、専門試験ですが、私の生命線となっていたのは、とある方の教材でした。本格的に司書を目指し始めた際、X(旧 Twitter)にて、「図書館司書になる！(@librarian_wiki)」というアカウントを見つけ、この方が提供しているオンライン教材を購入しました（司書の採用に関する情報も発信しているので、活用してみてください）。2023年12月現在、「図書館概論（法律編）」「図書館概論（知識編）・生涯学習概論・図書館経営論」「図書館サービス論・情報サービス論・児童サービス論」「図書館情報資源論」「情報資源組織論」の五つ、それぞれ690円で購入できます。ただし、稀に誤字・誤情報、古い情報があるので、ネット等で調べながら勉強することをオススメします。

私は、この教材に掲載されている用語をノートに一通り書き写し、そこからは単語帳をフル活用しました。



このように、用語と説明のどちらも言えるように、単語帳を何往復もして勉強しました。単語帳の良いところは、「出先の隙間時間にも勉強しやすいこと」・「ゴロゴロしながらでも勉強できること」だと思います。よく、寝る前にベッドで寝転がりながら勉強していました。

そして、一通り単語帳で用語を覚えた後に活用したのが、以下です。

- ・『司書もん 図書館職員採用試験対策問題集1 第2版』（図書館情報メディア研究会）
- ・『司書もん 図書館職員採用試験対策問題集2 第2版』（図書館情報メディア研究会）
- ・『司書もん 図書館職員採用試験対策問題集3 第2版』（図書館情報メディア研究会）

先輩方も、この教材を使用している方がほとんどだと思います。こちらは、選択問題もあり

ますが、記述解答に特化しています。そして、どれも解説ページが全体の半分以上を占めているので、解説もしっかりと読み込むことで、専門試験への備えは盤石になるかと思います。

専門試験で私が一番苦労したのは、堅苦しい法律関係でした。しかし、どの法律が何年に施行されたか、そして、コトバンクでも見られる『図書館情報学用語辞典』等の解説を読んで、その法律の概要くらいは覚えておくと損はしないです。実際に、記述試験で某法律の概要が問われました。

面接対策

一次試験を突破した先に待っているのは、面接です。面接に関して、私が大事だと思ったことは、二つです。

① 実際に図書館を利用してみる

② 面接が近くなったら、今まで以上に体調管理をしっかりする

この二つです。

まず①ですが、どこの自治体を受ける際にも、必ず図書館見学をしました。実際に利用することで、そこで働くイメージが湧き、モチベーションにも繋がりました。また、私はレファレンス業務に興味があったので、レファレンスも利用しました。面接の際にそのことを話したら、かなり好感触でした。

そして、見学時にはその図書館の良いところだけではなく、問題点もメモしておいた方が良いです。二つの自治体で、「実際に図書館を利用した」ことを面接で話したら、気になったことはないかと聞かれました。さらに、その問題点に対する解決法も考えておくとベストです。例えば、「展示スペースにあまり人がいなくて、寂しい印象を受けた」→「図書館の入口付近で、展示のことをもっと宣伝するべき」など。

面接で聞かれたことは、「志望動機」「長所・短所」「これまで力を入れたこと」「成果や達成感を得たこと」「学生時代の集団活動でどのような立ち位置だったか」や、「最近気になったニュース」「なぜ公務員なのか」「ストレスの対処法」などでした。また、都道府県を受けるのであれば、「市町村ではなくなぜ都道府県なのか」ということも聞かれる可能性は高いです。

そして、②ですが、これは私の後悔からのアドバイスです。私は、1年間勉強を頑張ったおかげで、5つの自治体、どれも学科試験を突破することができました。しかし、第一志望だった自治体の二次試験の前日に、コロナの陽性判定が出てしまいました。5類感染症に移行した後だったので、「1日で治すことができれば」と思っていました。残念ながら悪化する一方でした。当時は本当に、絶望以外の言葉が思い浮かびませんでした。今でも、もしあの時元気だったら、とタラレバ話をしてしまいます。

学科試験のケアレスミス、上手く受け答えができなかった面接、その何倍も悔しいケースだと思います。私の二の舞にならないよう、ぜひ、体調には気を付けて臨んでください。

おわりに

司書への就職は、本当に厳しい道だと思います。なぜこんなに競争率が高いんだと、その理不尽さに嘆くことが度々ありました。それでも、非正規職員ではなく、正規職員として図書館で働くことを選び、公務員試験に挑む覚悟を持つことができたなら、あとは頑張っただけです。必ず、司書になりたいという思いと覚悟が、あなたを支えてくれます。

この体験記を読んでくださった方が、無事に就職活動を乗り越えられることを、心より願

っております。

最後になりますが、体験記を書く機会をくださった青柳啓子先生、中村百合子先生、ありがとうございました。